

# 体育科・保健体育科の 「目標」等について

## 目標

### (目標)

(柱書)

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

### (見方・考え方)

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

## 内容

（知識及び技能）

（思考力、判断力、表現力等）

知識及び技能の統合的な理解（仮称）	思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮（仮称）
<高次の資質・能力>	

● 年 相 當	・ ・ ・	・ ・ ・
● 年 相 當	・ ・ ・	・ ・ ・

（内容の取扱）

③「目標」について

→「見方・考え方」の改善イメージを踏まえ、  
小・中・高の各段階について検討

②「学びに向かう力・人間性等」の要素について

→前回WGでの議論を踏まえた改善イメージ

①「見方・考え方（学びの本質的な意義の中核）」について

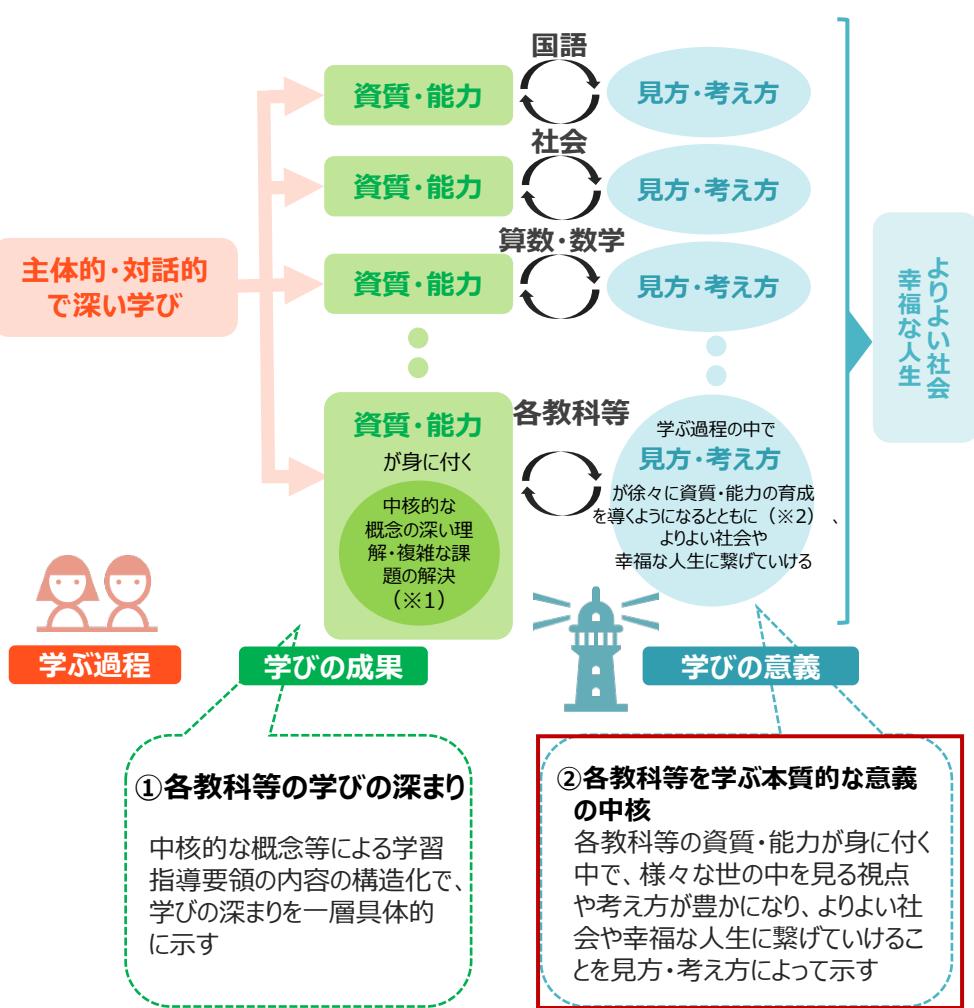
→前回WGでの議論を踏まえた改善イメージ

「内容」を含めた今後の検討や、総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえ、適宜往復しながら検討を進めることを想定

# ①見方・考え方 (Ver.2)

# 今後の見方・考え方の役割の改善イメージ

教育課程企画特別部会  
「論点整理」  
(R7.9.25)より  
赤枠追加



## 改善イメージ

### 目標

～以下の資質・能力を育成することを目指す。  
(目標での見方・考え方の記載ぶりは別途検討)

(例) 事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的、発展的に考える

知・技

思・判・表

学・人

### ②本質的意義

教科の本質的な意義に焦点化して端的に示すことで教科を学ぶ本質的な意義を分かりやすく本則上で示すことができる

### 内容

中核的な概念の深い理解(仮)

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

知・技

(例) 比例・反比例の理解、一次方程式の解き方

複雑な課題の解決(仮)

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

思・判・表

(例) 二つの数量の変化・対応関係を見出し、式やグラフを用いて考察する

### ①学びの深まり

学びの深まりは中核的な概念等による構造化の中で、内容に即して具体的に示す

\*従前の見方・考え方の整理は、見方・考え方が資質・能力の一部と誤解される遠因となっていたことから改善を図り、見方・考え方は、資質・能力（中核的な概念等を含む）の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋げていける学びの本質的な意義として整理する

# 体育の新たな「見方・考え方」イメージ (Ver.2)

(「見方・考え方」の改善の方向性)

## 見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

各教科等の資質・能力が身に付く中で、**様々な世の中を見る視点や考え方**が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生に繋げていけることを見方・考え方によって示す

主体的・対話的で  
深い学び

▶ 資質・能力が  
身に付く

▶ 幸福な人生  
よりよい社会

## <書きぶりイメージ>

(教科で扱う事象や対象) を  
(教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着目して捉え)  
(教科固有の考え方や判断の仕方) すること

## <留意点>

- ◎現行より**短く端的に** (各教科の深まりの鍵は「中核的な概念等」を通じて)
- ◎**経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述に**

## 体育



(前回（第3回）WG時点のイメージ)

運動やスポーツを、  
全ての人にとっての自由な楽しみ方や、心身の充実に果たす役割の視点から捉え、  
「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を通じて、自他の豊かな生涯の実現を目指すこと。 93字

## 第3回WGでの主な御意見等

●は体育・保健で共通すること、●は主として体育に関すること

- 「見方・考え方」は今後の議論の中でも軸として参照し、必要に応じて立ち返り検討していくべきではないか。
- なるべく教師が解説を読まずとも誤解せず理解できるような表現として磨いていくとよいのではないか。
- 体育と保健を一体的にとらえながら検討することが必要ではないか。その際、学校教育法にある「心身の調和的発達を図る」という原点を共通認識として押さえておくことが必要ではないか。
- 多様性の包摂に通じる点や、「する、みる、支える、知る」等の運動等との多様な関わり方を大切にする方向性は望ましいのではないか。
- 「自由」という言葉は様々な受け止め方があり得るところ、表現の検討が必要ではないか。
- 「自他の豊かな生涯の実現を目指す」について、学校現場における指導のイメージに繋がりやすい表現は考えられないか。
- 運動・スポーツの「価値」の表現について工夫が考えられないか。

## 改善 イメージ

運動やスポーツを、  
**心身の充実に果たす役割や、「する、みる、支える、知る」などの多様な楽しみ方**の視点から捉え、  
自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。 82字

## 現行

運動やスポーツを、  
その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、  
自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。 92字

※「目標」や「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

# 保健の新たな「見方・考え方」イメージ（Ver.2）

（「見方・考え方」の改善の方向性）

## 見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

各教科等の資質・能力が身に付く中で、**様々な世の中を見る視点や考え方**が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生に繋げていけることを見方・考え方によって示す

主体的・対話的で  
深い学び

▶  
資質・能力が  
身に付く

▶  
幸福な人生  
よりよい社会

## <書きぶりイメージ>

（教科で扱う事象や対象）を  
(教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え（に着目して捉え）  
(教科固有の考え方や判断の仕方) すること

## <留意点>

- ◎現行より**短く端的に**（各教科の深まりの鍵は「中核的な概念等」を通じて）
- ◎**経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述に**

## 保健



（前回（第3回）WG時点のイメージ）

保健に関する課題や情報を、  
健康や安全に関する概念に着目して捉え、  
リスクの軽減や生活の質の向上及び健康・安全を支える環境づくりを目指すこと。

69字

## 第3回WGでの主な御意見等

●は体育・保健で共通すること、●●は主として保健に関すること

- 「見方・考え方」は今後の議論の中でも軸として参照し、必要に応じて立ち返り検討していくべきではないか。
- なるべく教師が解説を読まずとも誤解せず理解できるような表現として磨いていくといいのではないか。
- 体育と保健を一体的にとらえながら検討することが必要ではないか。その際、学校教育法にある「心身の調和的発達を図る」という原点を共通認識として押さえておくことが必要ではないか。
- 「原則や概念」という表現について、現場の教師の理解のしやすさの観点から検討することが望ましいのではないか。
- 健康や安全に関する原則や概念を理解しつつ、自らの生活や行動を見直していくことにもつながる要素が必要ではないか。
- 「自らに関すること」と「環境づくりに関すること」の記載について、理解しやすい表記の工夫は考えられないか。
- 別で示す「目標」との関わりを踏まえると、文末表現に工夫は考えられないか。

## 改善 イメージ

保健に関する課題や情報を、  
健康や安全に関する**概念やそれに基づく原則**に着目して捉え、  
リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりに**につなげること**。

79字

## 現行

個人及び社会生活における課題や情報を、  
健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、  
疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

※「目標」や「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

80字

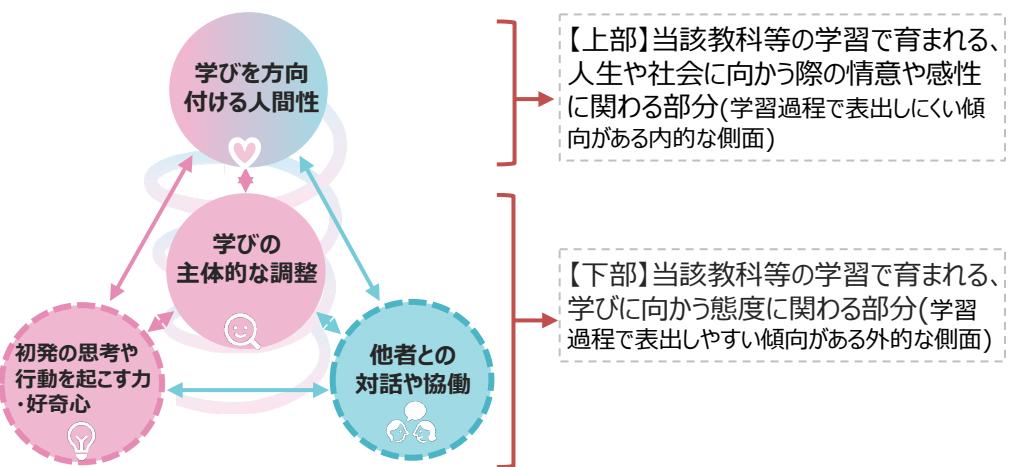
## ②学びに向かう力・人間性等 要素イメージ（Ver.2）

# 検討項目② 学びに向かう力・人間性等

令和7年10月14日  
総則・評価特別部会資料  
枠 追 加

## 1. 論点整理で示された方向性及び企画特別部会での議論

- 論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



- また、論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」の学習評価に関し、個人内評価を基本とした上で、学びに向かう態度に関わる下部の3要素については、学習評価において、「思考・判断・表現」の過程で特に表出した場合には「○」をつける方向で検討するとされている
- 「学びに向かう力・人間性等」は、学習指導要領の「内容」に原則として記載がなく、学習評価に当たっては教科等の「目標」を踏まえて行うこととなるため、そうした点も踏まえた「目標」の書きぶりが重要

※ 現行、各教科等において育成する「学びに向かう力・人間性等」は、個別の学習内容に応じて異なることが想定されにくいため、原則として各教科等の「目標」水準でのみ記載されている。こうした性質は、今回の論点整理に伴って変わるものではない。

## 2.1. 踏まえた目標における書きぶり

- 1. を踏まえると、「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込むうとすることで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

### ① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す  
(現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度（中・理科）)  
→学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

### ② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す

(現行の例：自然を愛する心情（小・理科）、明るく豊かな生活を営む態度（中・体育）など)

- 一方、現行でも、複数分野を有する社会科など、多くの内容が盛り込まれ目標の書きぶりが複雑な教科もある中、分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指す上では、今回の見直しで一層複雑となることは避ける必要
- こうしたことを踏まえ、目標については、表形式となることも踏まえ、箇条書きも利用して分かりやすく構造化することを可能としてはどうか（この点は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の目標も同様）

# 体育・保健の新たな「学びに向かう力・人間性等」の要素イメージ (Ver.2)

## 学びに向かう力・人間性等

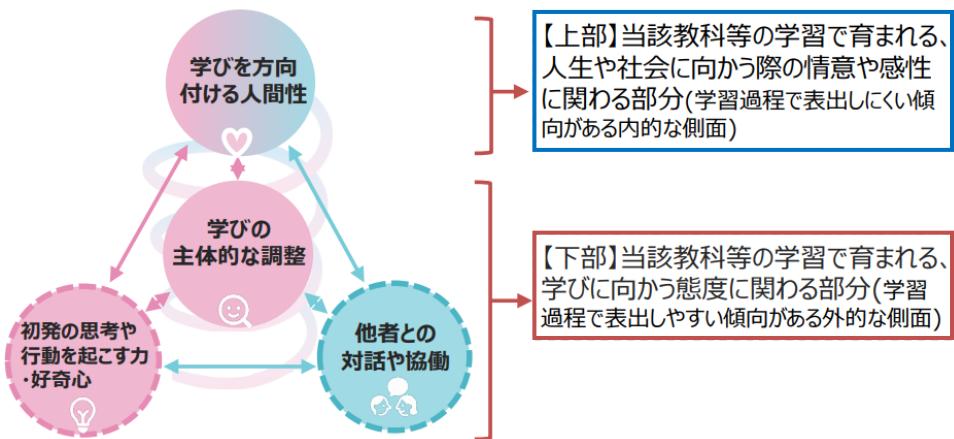
変化の激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育むことを目指し、以下のとおり主要な要素等を整理。

### ①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度  
(学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面)

### ②当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性  
(学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面)



## 主な御意見等

●は体育・保健で共通すること、●は主として体育に関する事、●は主として保健に関する事

- 「意欲」や「主体性」に関する要素をより分かりやすく示してはどうか。
- 「学びに向かう力・人間性等」の要素を含め、目標を検討する際には、体育と保健の関連を踏まえた視点が重要ではないか。
- 態度に関する内容を、知識や技能の面に着目し、資質・能力の中で「知識及び技能」に再整理する方向性は、全ての教師にとって分かりやすく、指導の改善に繋がることが期待される。一方で、「指導内容が増えた」「教え込みが必要」などの誤解が生じることのないよう留意が必要。
- 従来「(運動・スポーツに関する)愛好的な態度」として示されていた要素は、将来にわたって豊かなスポーツライフを目指す観点からも、例えば「(他者を)たたえる」といったこと等も含め、子供たちの多様な姿をこれまで以上に積極的に価値づけることが期待される。  
(→上記 ● 2点については、次回以降、指導と評価について具体的なイメージを元に更なる検討を予定)
- 保健の学習の特性を踏まえ、学んだことを自身や他者の行動化につなげるといった要素を分かりやすく示すことは重要ではないか。

## 「学びに向かう力・人間性等」の要素イメージ (Ver.2) ※前回 (第3回) からの改善点を赤字

### ①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度【要素】

- 既存の知識や経験等を土台として、初発的な思考や行動を起こす態度
- 教師や指導者を含む他者と対話・協働したり、関係する情報を書籍等から得ながら課題に取り組もうとする態度
- 自身の思考や行動等を客観的に把握し、自己調整に努め、**意欲的・主体的に課題等に取り組もうとする態度**
- 運動・スポーツとの多様な関わりや、それらを通じた人との関わり等に親しみ、その良さや価値を味わおうとする態度
- 自他の健康の保持増進に向けて、学んだことを日々の生活行動と関連付けて実践しようとする態度

### ②当該教科等の学習で育みたい情意・感性【要素】

- 運動・スポーツを、多様な関わり方を前提として生活の中に取り入れ、自身的状況等に応じた心身の充実に努めながら、明るく豊かな生活を営もうとする態度
- 生涯を通じて心身の健康の保持増進及び回復を目指そうとする態度
- 活力あふれる健康長寿社会・共生社会や安全で安心な社会を実現し、社会全体が持続的にウェルビーイングである状態となることに向けて、その環境づくりに主体的・協働的に参画しようとする態度

\*「目標」や「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

### ③目標

# 検討項目① 見方・考え方

令和7年10月14日  
総則・評価特別部会資料  
(会議後修正版)  
枠 追 加

## 1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

### 【現行】各教科等の目標の柱書き（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働きかせ（見方・考え方）、言語活動を通して（学習過程）、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す

### 【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い合わせたりして、言葉への自覚を高めること」

### ＜現行の記述ぶりの課題＞

- 現在、各教科等の目標の柱書きには、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載されており、冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないと分からない。

### ＜論点整理で示されたこと＞

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく、「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」ものと位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく、使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書きに、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書きは、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

## 2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

### （目標）

● ● する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、● ● することなどを通じて（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

### （見方・考え方）

● ● （当該教科で扱う事象や対象）を ● ● （当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、● ● （当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

### （見方・考え方方に含める要素）

- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
  - ① 当該教科等が扱う事象や対象
  - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
  - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により、教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

### （見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか（学習・指導を通じて、最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意）

# 体育科・保健体育科の新たな「目標」の検討について

## 現状認識等

- 現行の各教科等の目標の「柱書」には、「見方・考え方」、「教科に特徴的な活動」、「資質・能力の趣旨」が記載されており、冗長さや分かりづらさがあるとの指摘があり、総則・評価特別部会において改善イメージが示されている。
- 「学びに向かう力・人間性等」について、「論点整理」においては、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から4つの要素により整理する方向性が示された。さらに、総則・評価特別部会において、こうした要素を踏まえ、目標が冗長となることを避けつつ「当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度」と「当該教科等の学習で育みたい情意・感性」の2つの要素をバランス良く含めることが提案されている。
- 現行の体育科・保健体育科の目標は、小・中・高で系統性を意識した目標を定めており、段階的な資質・能力の育成に必要な役割を果たしている。



## 検討イメージ

- 「論点整理」や「総則・評価特別部会」で示された方向性を踏まえ、体育・保健体育を学ぶ本質的意義や、検討を進めている「見方・考え方」にも留意のうえ、新たな「目標」イメージを検討してはどうか。
- その際、心身の発達の段階を踏まえた小、中、高の系統性が引き続き重要であると考えられることから、現行の目標が担っている段階的な資質・能力の示し方の視点は維持すべきではないか。
- 一方で、教科として目指す方向性は学校種間によって異なるものではないと考えられることから、目標の「柱書」については小・中・高で共通的に示し、発達段階に応じた段階的な書き分けは、資質・能力の柱ごとに行うことで、学校種間を見通した資質・能力の育成や、分かりやすい学習指導要領となることに資するのではないか。
- 「学びに向かう力・人間性等」は、当WGにおける議論において、様々な要素・視点から捉えられることが指摘されていることを踏まえ、目標が冗長となり指導イメージがわきづらくなることを避ける観点から、箇条書きを用いることとしてはどうか。

# 体育科の新たな「目標」イメージ（小学校）

現行

※下線は、現行の目標において、学校種による書き分けがされている部分

## 【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働きかせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 【知識及び技能】

その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

## 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けた思考し判断とともに、他者に伝える力を養う。

## 【学びに向かう力・人間性等】

運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

改善イメージ

※下線は、学校種による書き分けに関する部分



## 【柱書】 ●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

共通

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、体育や保健に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、次のとおり育成することを目指す。

## 【知識及び技能】

その特性に応じた運動の行い方や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

## 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての課題を見付け、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

## 【学びに向かう力・人間性等】

- 運動との多様な関わり方や自己の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けた、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。
- 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、健康の保持増進や体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく楽しい生活を営む態度を養う。

※ 今後「高次の資質・能力」等も含めて更に議論を進める中で、「目標」についても教科としての特性をより的確に表現する観点等から引き続き検討を行うことを想定。

## 見方・考え方（Ver.2）

体育 運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、「する、みる、支える、知る」などの多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

保健 保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに基づく原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

# 保健体育科の新たな「目標」イメージ（中学校）

現行

※下線は、現行の目標において、学校種による書き分けがされている部分

## 【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働きかせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

## 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

## 【学びに向かう力・人間性等】

生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

改善イメージ

※下線は、学校種による書き分けに関する部分



## 【柱書】 ●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

共通

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、  
体育や保健に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、次のとおり育成することを目指す。

## 【知識及び技能】

その特性に応じた運動に関する技能や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

## 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

## 【学びに向かう力・人間性等】

●生涯にわたる運動との多様な関わり方や自他の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。  
●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、健康の保持増進や体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

※ 今後「高次の資質・能力」等も含めて更に議論を進める中で、「目標」についても教科としての特性をより的確に表現する観点等から引き続き検討を行うことを想定。

## 見方・考え方（Ver.2）

体育 運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、「する、みる、支える、知る」などの多様な楽しみ方の視点から捉え、  
自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

保健 保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに基づく原則に着目して捉え、  
リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

# 保健体育科の新たな「目標」イメージ（高等学校）

現行

※下線は、現行の目標において、学校種による書き分けがされている部分

## 【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働きかせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

## 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

## 【学びに向かう力・人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

改善イメージ

※下線は、学校種による書き分けに関する部分

共通

【柱書】 ●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、  
体育や保健に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、次のとおり育成することを目指す。

## 【知識及び技能】

その特性に応じた運動に関する技能や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する技能を身に付けるようにする。

## 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的、計画的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

## 【学びに向かう力・人間性等】

●生涯にわたる運動との継続的で多様な関わり方や自他の心身の健康やそれを支える社会づくりに関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。  
●自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、健康の保持増進や回復、及び体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

※ 今後「高次の資質・能力」等も含めて更に議論を進める中で、「目標」についても教科としての特性をより的確に表現する観点等から引き続き検討を行うことを想定。

見方・考え方（Ver.2）

体育 運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、「する、みる、支える、知る」などの多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

保健 保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに基づく原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

# 保健体育科の現行の「目標」等 全校種（再掲）

小

## 【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働きかせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 【知識及び技能】

その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

### 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

### 【学びに向かう力・人間性等】

運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

中

## 【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働きかせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

### 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

### 【学びに向かう力・人間性等】

生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

高

## 【柱書】

体育や保健の見方・考え方を働きかせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

### 【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

### 【学びに向かう力・人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

見方・  
考え方

体育  
保健

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

# 保健体育科の新たな「目標」イメージ等 全校種（再掲）

共通

【柱書】 ●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、体育や保健に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、次のとおり育成することを目指す。

小

**【知識及び技能】**  
その特性に応じた運動の行い方や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

**【思考力、判断力、表現力等】**  
運動や健康についての課題を見付け、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

**【学びに向かう力・人間性等】**

- 運動との多様な関わり方や自己の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。
- 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、健康の保持増進や体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく楽しい生活を営む態度を養う。

中

**【知識及び技能】**  
その特性に応じた運動に関する技能や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

**【思考力、判断力、表現力等】**  
運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

**【学びに向かう力・人間性等】**

- 生涯にわたる運動との多様な関わり方や自他の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。
- 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、健康の保持増進や体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

高

**【知識及び技能】**  
その特性に応じた運動に関する技能や豊かなスポーツライフにつながる関わり方及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する技能を身に付けるようにする。

**【思考力、判断力、表現力等】**  
運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的、計画的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。

**【学びに向かう力・人間性等】**

- 生涯にわたる運動との継続的で多様な関わり方や自他の心身の健康やそれを支える社会づくりに関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。
- 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、健康の保持増進や回復、及び体力の向上を含む心身の充実を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

※ 今後「高次の資質・能力」等も含めて更に議論を進める中で、「目標」についても教科としての特性をより的確に表現する観点等から引き続き検討を行うことを想定。

見方・  
考え方

**体育** 運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、「する、みる、支える、知る」などの多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

**保健** 保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに基づく原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。